

⑨日本国特許庁
公開特許公報

⑩特許出願公開
昭52—138062

⑪Int. Cl.²
B 01 D 15/00 //
C 02 C 5/02
C 22 B 60/02

識別記号
1 0 1
1 0 1

⑫日本分類
13(7) B 621
10 G 22
13(9) F 2
91 C 91

庁内整理番号
7404—4A
7047—42
6939—4A
6462—26

⑬公開 昭和52年(1977)11月17日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭海中を移動する吸着剤ブロック

⑮特 願 昭51—54976

⑯出 願 昭51(1976)5月13日

⑰発 明 者 芦田啓次

東京都千代田区鍛冶町二丁目6

番1号 住友原子力工業株式会
社内

⑱出 願 人 住友原子力工業株式会社
東京都千代田区鍛冶町二丁目6
番1号

⑲代 理 人 弁理士 滝本浩

明 細 書

発明の名称 海中を移動する吸着剤ブロック
特許請求の範囲

多数の膜状吸着剤をそれぞれ小間隙を隔てて重合し前記小間隙に海水を流出入せしむることを特徴とする海中を移動する吸着剤ブロック。

発明の詳細な説明

本発明は海中を移動する吸着剤ブロックに関するものである。

海水中に含有される稀少物質例えばウランを採集する方法の一つとして吸着法が研究されているが、海中を移動する吸着剤として流体抵抗が小さく且つ広い面に於いて海水と接触するものが要求されている。

本発明はこの要求に応じて工夫されたものであって、膜状吸着剤を間隙を隔てて多数重合せるものである。

これを図面により具体的に説明すると図面は本発明の吸着剤ブロックの斜視図であって、(1)は膜状吸着剤例えばアタニ酸、方鉛礦等の粉粒体を電板に附着せるもの又は線維状吸着剤を膜状に加工せるものであってこれを多数それぞれ小間隙(2)を隔

2

てて重合し、バルト(3)にて締めつけてブロック(4)とせるものである。なお小間隙を隔てる手段としてスペーサーを用いてもよい。(5)は海水の流入方向、(6)はその流出方向である。

本発明の海中を移動する吸着剤ブロックは多数の膜状吸着剤をそれぞれ小間隙を隔てて重合せるものであるから流れる海水は多数の小間隙より入って広い面に於いて吸着剤に接触して出て行くので、流体抵抗は小さく、且つ広い面に於いて海水と接触するので海水中に含有される稀少物質の吸着効率が極めて良いのである。

図面の簡単な説明

図面は本発明の海中を移動する吸着剤ブロックの斜視図である。

(1)は膜状吸着剤、(2)は小間隙、(4)は吸着剤ブロック、(5)、(6)はそれぞれ海水の流入、流出方向。

代理人 弁理士 滝本 浩



